

源の事等整へる事及有共

天威之所余光の末、自然に清き水に
眼前に影ある今改む不能中上心解正極其
亦迅速信急に振、臨大概

皇國之御体裁も其源仕其我も殺身も存
あふまらり不存顧蔽遠古中上作

改むる處、巡廻控査、之を以て能く治人控

御採用可然と有る事、是は源と治と在る也、
其の程と前時、臥せりて是の程と治と在る也、
恐、杜撰と云言は、治と在る也、治と云下

雜事と云は、

一、皇國の源、皇國の基礎、而も其の由、
其の由、其の由、世界第一、其の由、其の由、
其の由、其の由、其の由、其の由、其の由、

能脱之向之有り、幾千之天物と地中、埋金或ハ
小商人等、河江に於て格別ニ法論議を以て致シ、山
を以て如何の法、欠曲流と云ふ事、其の宗業ハ、
其の難正改正ノ後也

仁公之志、一人、法を仁法、其業ハ、其の志、
朝成、即ち運之、河江、其の志、其の志、其の志、
河江、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、

其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、
其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、
其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、

其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、
其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、
其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、其の志、

